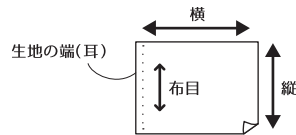


はじめてのパッチワーク

パッチワークのきほん

図案の写し方

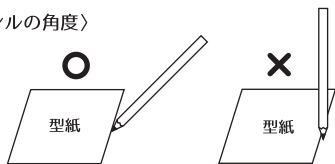
1.生地には「布目」があり、なるべく向きを揃えて図案を写すようにします。



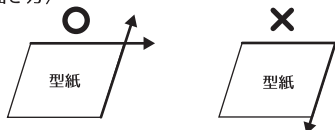
2.パッチワークボード*1の上に布の裏側を上にして置き、よくとがったキルターペンシル*2や鉛筆で型紙のきわをなぞります。その後、指定の縫い代を付けてカットします。

※カットした布をピースと呼びます。

〈ペンシルの角度〉

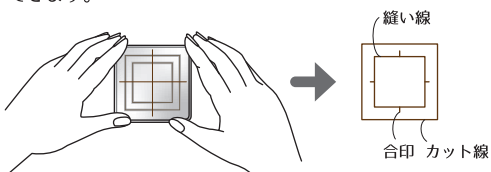


〈角の描き方〉



パターンスタンプ

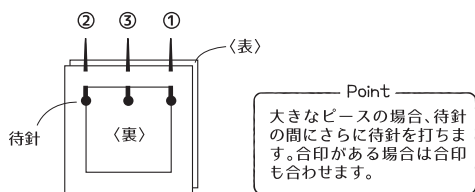
パターンスタンプ*3を使うと印付けが早くキレイに正確にできます。



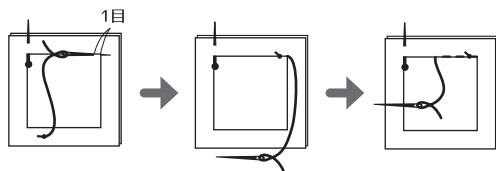
ピースワーク

※ピースどうしを縫い合わせること。

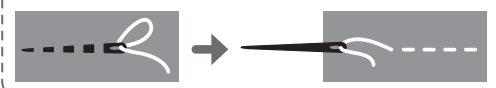
1.ピースを中表に合わせて、印の角を合わせて番号の順にまち針をうちます。



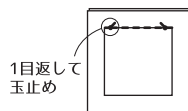
2.玉結びをし、角から1目進んだ位置に針を入れ、角に1目戻ります。その後、くし縫いで縫い進みます。



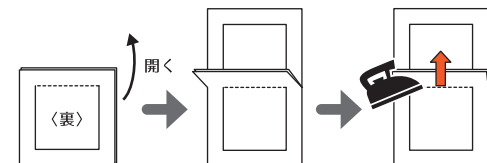
【くし縫い】均一な針目で数目縫い、糸を引き抜きます。



3.角まで縫い進んだら、軽く指で糸をききして、縫い目をならし、1目返し縫いをします。玉止めをして糸を切ります。縫い終わりの玉止めは布の上側、下側のどちらになってもかまいません。

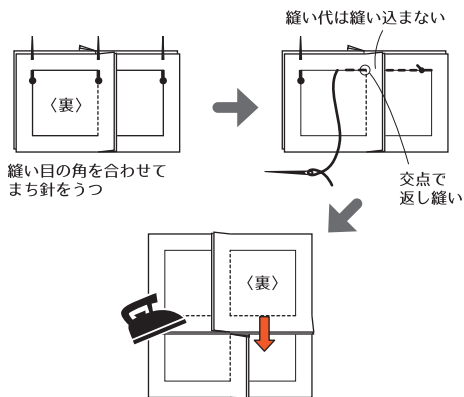


4.ピースを開いて(→)の方向に縫い代をたおし、アイロンを当てます。縫い合わせるたびにアイロンをあてると仕上がりがキレイです。



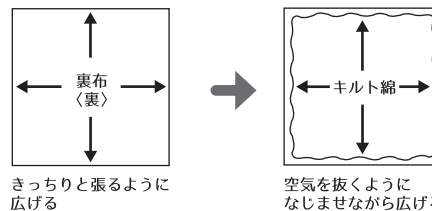
※ピースを複数、縫い合わせたものをブロックと呼びます。

5.ブロックどうしを縫い合わせる際、縫い代を起こして縫い込まないようにします。ピースの交点の前後では必ず1目返し縫いをします。



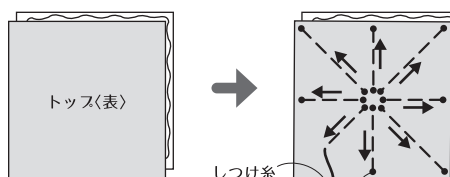
ベースティング ※トッス(表布)、キルト綿、裏布を合わせてしつけをかけること。

- トッスの縫い代をきれいに倒してアイロンをあてます。トッスの表側にアイロンマーカー*4や、キルトレット*5などでキルトラインを描き入れます。
- 平らな場所に裏布をきっちり張るように四方に広げ、その上にキルト綿を置き、その中央から四方に空気を抜くように手でなじませます。



Point
裏布をきっちり張らないと、キルトが裏布の方へ膨らんでしまい、きれいに仕上がらない場合があります。

3.手でなじませるように、トッスをのせ、中心から外に向かって放射線状にしつけ糸*6でしつけをかけます。

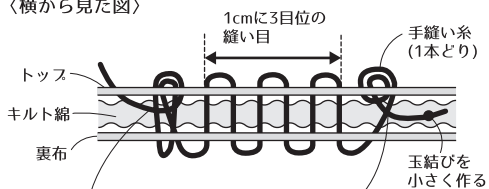


Point
しつけ糸は、平らなところに置いたまま、布は持ち上げずにかけます。

キルティング ※ベースティングをして3層になったものを、縫い合わせること。

中心から外側に向かって、キルティングしていきます。針は布に対して垂直に刺し、裏布まできちんとすくいます。糸は、40~50cmにカットした手縫い糸(1本どり)で、布の色目と同色の糸か、白または生成の糸を使用します。

〈横から見た図〉



〈縫い終わり〉

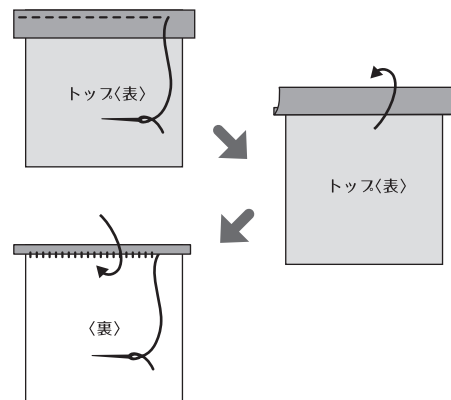
1目返し縫いをし、2cm位離れたところに糸をだし、引っ張り気味に糸を切り、糸端をキルト綿の中におさめる

〈縫い始め〉

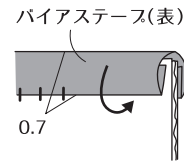
縫い始めの位置から2cm離れたところから針を入れ、引っばって玉結びをキルト綿の中に引き込み、1目返し縫いをする

パイピング ※緑をくるんで始末すること

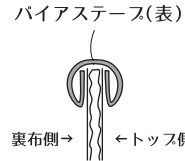
1.パイアステースなどの緑布をキルティングした本体に中表に合わせて縫いつけ、緑をくるんでたてまつりてまつります。



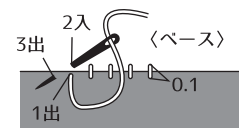
〈裏布側から見た図〉



〈断面から見た図〉



【たてまつり】



布を0.1cmずつ程すくい、縫い目が目立たないように縫います。たてまつりの縫い目は垂直になるように気を付けます。

道具について

- *1 サンドペーパー面がついていて、布地がすれにくく、印がつけやすいパッチワーク用のアイロンボードです。
- *2 少し硬めの芯で細かい作業がしやすい印つけペンです。
- *3 スタンプするだけでパターンと縫い代、合印の印付けが同時にできます。専用の布用インクパッドもご用意ください。
- *4 アイロンの熱で消えるペンです。濃い色の生地に有効です。
- *5 円盤状のヘラです。折り目を付けたり、キルトラインの印をつけるの便利です。
- *6 しつけ専用の糸を使用してください。